

鳥獣の  
被害対策

## イノシシ用侵入防止柵の効果は？

～ 大田地域での設置、被害発生状況からの分析 ～

## 研究の背景・目的

イノシシによる農作物の被害対策として、様々な種類の侵入防止柵が設置されていますが、侵入されて被害発生を認める場合も多くあります。そこで、設置されている既存防止柵の設置法の問題点や防止柵の効果を明らかにして、地域に応じた設置方法を提案しました。

## 研究方法

2003年～2005年、大田市川合町、久利町の平野地域、山間地域および放牧地域の3か所(各約1km<sup>2</sup>)において、防止柵の設置状況と被害発生状況を調査しました。

## 研究の成果

平野地域は、往来の激しい道路やコンクリート畦畔、大きな河川によって囲われており、被害発生は認めませんでした。放牧地域は、牛などの放牧によって耕作放棄地の雑草等が管理されており、被害発生は多くはありませんでした。一方、山間地域はイネを中心に被害発生が多かったため、電気柵を大規模に設置・管理するなどの積極的な被害回避策の展開が必要でした(図2)。防止柵の設置上の問題点としては、①各農家が個々の耕作地に設置している。②耕作地の全周を囲っていない場合がある。③効果の低いネット柵を設置して侵入を受けている。④電気柵は、イネの被害発生期の直前(8月上旬頃)に設置される場合が多いことなどが指摘できました。したがって、防止柵は電気柵などの有効なものを選択し、可能ならば年中大規模に共同で設置・管理するのが効果的であり、またイノシシの好適な生息地となる耕作放棄地等を放牧による草刈り管理を行うのが、被害軽減効果を高めるには有効と考えられました。

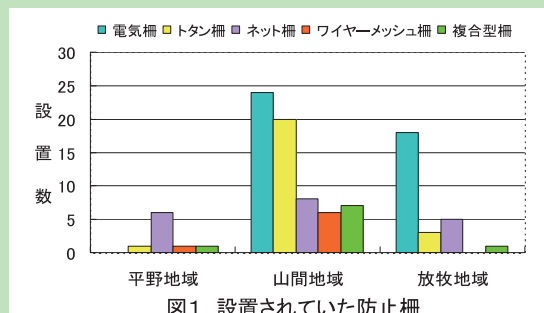


図1 設置されていた防止柵

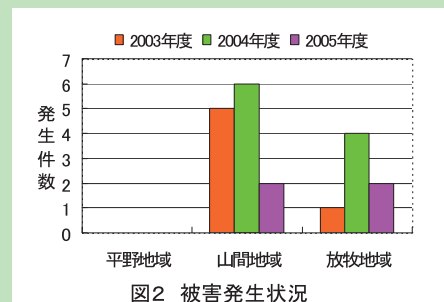


図2 被害発生状況



侵入を受けたネット柵



年中設置されている電気柵

## 研究成果の活用

侵入防止柵の効果的な設置法の普及に役立っています。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
鳥根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 鳥根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 金森 弘樹(かなもり ひろき)

問い合わせ先 0854-76-3818

E-mail [chusankan@pref.shimane.lg.jp](mailto:chusankan@pref.shimane.lg.jp)

課題名:イノシシの生態解明と農作物被害防止技術の開発(研究期間:H15~17)